



教育支援部だより



令和7年度
No.3

今回は、学習しやすい環境作りについてです。見通しを持って生活したり、落ち着いて学習に取り組んだりすることができるようにするための工夫を紹介します。

発達障害やその傾向のある児童生徒は、周囲の小さな変化が気になって注意が続かないことがある一方で、少し配慮することで落ち着いて取り組むことができる場合もあります。全ての児童生徒が安心して、落ち着いて過ごせるために、不要な刺激を減らしたり、整理整頓に努めたりすることが大切です。子どもたちの実態を観察し、子どもたちにとって動きやすく、学習や生活がしやすい教室環境を考えることが大切です。



○ 構造化

「構造化」とは、何かの活動を行う前に、その活動を行いやすくするために環境を整えることです。主に自閉スペクトラム症の子どもやその家族の支援を目的として米国で開発された、生涯支援プログラム「TEACCH プログラム」で用いられている手法です。「いつ」「どこで」「何を」「どのようなやり方で」「どうなったら終わりなのか」「終わったら次に何があるのか」の6つの情報を視覚的に伝えることです。

構 造 化	①物理的構造化	目の前の活動に集中
	②スケジュール	いつ・どこで・何をするのか
	③ワークシステム	何を、どのくらい、いつ終わるか、 終わったら何があるか
	④視覚的構造化	見える形でわかりやすく
	⑤ルーティン	習慣化して教える

視覚的指示	→	流れ・方法を視覚的に提示する
視覚的整理統合	→	材料と空間を視覚的に提示する
視覚的明瞭化	→	材料と指示をより明確にする

Ⅰ 物理的構造化

～刺激の遮断～

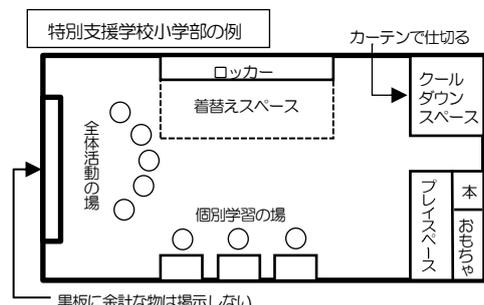
影響を受けている刺激を遮断することで、必要な情報に注目しやすくする。

(例) 外食で…車にこだわり→窓際の席を避けて食事
着替え・作業など…集中できない→何かで困う

～活動場所の設定～

一つの場所は一つの活動 エリアの設定をして「どこで」「なにを」するのか分かりやすくする。

(例) ・チャレンジエリア
・休憩・クールダウン・リラックスエリア
・食べる場所
・着替える場所
・教えてもらう場所 など



2 スケジュール

～予定・活動を見て分かるように～

予定、変更を伝える物、「いつ」「どこで」「何を」の情報提示（左から右、上から下へ）様々なタイプのスケジュールがあります。

本人がイメージできる物（文字、絵、写真、具体物など）で提示することが大切！



時計とイラストで
一日の予定を示す



時間割、活動場所
を写真で示す

「実物写真」「具体的な絵」「シンボル」
「色の有無（カラー、モノクロ）」と分か
りやすさは、個々の子どもで違います！



3 ワークシステム

～活動の見通し、終わりを視覚化して伝える～

「何を」「どのように」行うかが分かりやすいワークシステム（学習の仕組み）にする。ポイントは「どれだけ」行えば「終わり」なのかを分かりやすくすることです。



終わつた
らカード
を入れる



左側に材料、終わ
つたら右側のかご
に入れる



作業内容の指示



キッチンタイマー、タイムタ
イマーなどでの時間の提示

4 視覚的構造化

～具体的なやり方等を視覚的に伝える～

個々に合わせて見える形で分かりやすくすること（マニュアル・手順書など）で、主体的に取り組めるようにする。



数が数えら
れなくても
分かる



順番待ち
の足形

5 ルーティンの活用

～いつも同じやり方で伝える～

いつも使っているもので、同じルーティンにすることで見通しを持ちやすく、活動しやすくすることが大切です。

☆障害に配慮した環境作りは、その子のニーズに合っていること、安全であること、経済的であること、子どもが自ら動ける手がかりになること（見通しを持って生活できること）、使いやすく便利であること、見た目に分かりやすく、良好な状態であることなどが大切です。

引用文献：「見える形でわかりやすく—TEACCHにおける視覚的構造化と自立課題」

ノースカロライナ大学医学部精神科 TEACCH 部